



少しずつ戻る学校の日常 緩むことなく感染防止を

◎6月1日をもって、福岡コロナ警報が解除されたことに伴い、本市においても児童生徒の登校基準が一部変更になるなど、徐々に緩和されてきています。3年ぶりに水泳学習も実施できるようになり、各学年の校外学習も行われ、学びを深めているところです。

本日は、多数の保護者の皆様に、日頃のお子様の学習の様子をご参観いただくことができました。感染症対策のため、検温チェックなどご迷惑をおかけしましたが、相互に距離を取っていただくなど、ご協力に感謝申し上げます。

また、熱中症リスクが高い時期になりましたので、登下校時や休み時間の外遊び、体育の授業では、人との距離を取ってマスクを外すように呼びかけています。児童の中には、これまでの習慣から、マスクを外すことに抵抗を感じる子もいますが、熱中症は命の危険を伴います。ご家庭でも、お声かけいただきますようお願いいたします。以下に、今月行われた、各学年の校外学習をご紹介します。



6/8(水)

6年:平和のまちミュージアムスタディツアー

・今年開館した「平和のまちミュージアム」と小倉城を見学しました。「平和のまちミュージアム」では、戦時下の人々の暮らしや、空襲の被害、原子爆弾などをテーマにした展示から、戦争の影響を受けた子どもたちの暮らしや心情を実感することができました。360度シアターでは、八幡大空襲の被害など、今までにない臨場感で追体験することができ、平和の大切について考えを深めました。リニューアルされた小倉城では、400年の歴史に触れるとともに、小倉の街を一望できる天守閣からの眺めを楽しみました。



6/13(月)

3年:まちの様子調べ

・社会科の学習で、自分たちが生活する地域の様子を歩いて調べました。バス通り沿いにお店や公共の施設があること、高台に住宅や公園が多いことなどに気付きました。

6/16(木)

4年:社会科見学

・社会科で学んだ「穴生浄水場」「皇后崎清掃工場」を見学しました。それぞれの設備の大きさに圧倒されるとともに、私たちの暮らしが支えられていることを改めて実感しました。

※熱中症に注意！「睡眠・朝ご飯・水分補給」が決め手!!

◎梅雨入りしたとはいえ、連日の晴天で、熱中症が心配されるこの頃です。

本校では、環境省が示す暑さ指数(WBGT)を毎日確認し、嚴重警戒以上で熱中症が起る危険性が高い場合には、注意喚起の放送をするとともに、場合によっては昼休みの外遊びを中止するなどの対応を取るようにしています。

熱中症を予防するには、十分睡眠をとり、好き嫌いをなく何でも食べること。水筒を持ってくること。登下校時、帽子をかぶることも効果的です。ご家庭でもぜひ、ご協力をお願いします。



今日は何の日？

平和について考える 沖縄慰霊の日



◎今日6月23日は、太平洋戦争において我が国で唯一の地上戦が行われた沖縄で、日本軍としての組織的な戦いが終結した日です。沖縄の住民の多くが戦闘に巻き込まれ、亡くなった方の中には、遺骨が発見されることなく、遺族の元に返されないままになっている方も多くいます。本校では、毎年、人権学習の一環としてこの沖縄慰霊の日に沖縄戦について学ぶ機会をもつようにしています。今朝の放送で、私から子どもたちに伝えた内容を掲載します。ご家庭でも戦争や平和について、お話していただければと思います。

沖縄と言えば、青い海やサンゴ礁に囲まれ、毎年多くの観光客が訪れる暖かい島です。そんな明るいイメージの沖縄ですが、今から76年前、日本がアメリカやイギリス、中国等の国々と戦った太平洋戦争で、日本国内でただ一つの地上戦があった場所でもあるのです。

アメリカ軍が沖縄本島に上陸して、約3か月間、「鉄の暴風」ともいわれるほど激しい戦闘が続きました。日本軍は、学校で学んでいる若者も戦場へ駆り立てました。その数は2000人以上にもなります。まだ20歳にもならない若者たちが、鉄砲の弾丸を運んだり、負傷した兵士の手当てをしたりさせられました。このように、沖縄の住民は戦争に巻き込まれて、12万人が尊い命を奪われました。県民の4人に1人が亡くなったとされ、この中にはみなさんのような子どもや生まれたばかりの赤ちゃんも大勢いました。当時は「戦争に勝つこと」が何よりも優先されていたため、最も尊いはずの命が、大切に扱われなかったのです。

日本軍の組織的な戦いが終わった6月23日に、沖縄の平和祈念公園では、この戦争で犠牲になった方々に祈りをささげる「沖縄全戦没者追悼式」が開かれています。式の中では、毎年、沖縄の子どもたちが、戦争の悲惨さと平和の尊さに思いを寄せた詩を朗読しています。今年も、沖縄市立山内小学校2年の徳元穂菜（ほのな）さんの作品「こわいをして、へいわがわかった」が選ばれました。この詩には、多くの方が亡くなった沖縄戦の絵を美術館で見て不安になり、抱きついたお母さんの温かさに「これがへいわなのかな」と感じ、平和を守り続けたいと思った素直な気持ちがつづられています。みなさんに紹介しますね。

◎こわいをして、へいわがわかった 沖縄市立山内小学校2年 徳元穂菜

びじゅつかんへお出かけ おじいちゃんや おばあちゃんも いっしょに みんなでお出かけ うれしいな
こわくてかなしい絵だった たくさんの人がしんでいた 小さな赤ちゃんや、おかあさん
風ぐるまや チョウチョの絵もあったけど とてもかなしい絵だった
おかあさんが、七十七年前のおきなわの絵だと言った ほんとうにあったことなのだ
たくさんの人たちがしっていて ガイコツもあった わたしとおなじ年の子どもが かなしそうに見ている



こわいよ かなしいよ かわいそうだよ せんそうのはんたいはなに？ へいわ？ へいわってなに？

きゅうにこわくなって おかあさんにくっついた あたたくてほっとした
これがへいわなのかな
おねえちゃんとけんかした おかあさんは、二人の話を聞いてくれた そして仲間おり
これがへいわなのかな

せんそうがこわいから へいわをつかみたい ずっとポケットにいれてもっておく
ぜったいおとさないように なくさないように わすれないように こわいをして、へいわがわかった

戦争で深く傷ついた沖縄には、今でも多くの米軍基地が残っています。沖縄戦で地獄のような光景を目にしたり、家族を亡くしたりして生き残った人たちは、未だに「心の傷」をかかえており、基地の存在がその傷をさらに痛めている、と言われていています。私たちは、戦争のない平和な日本に今、生きています。しかし、遠く離れたウクライナでは、今、この時も、ロシア軍とウクライナ軍の戦闘によって、多くの人々が危険にさらされています。当たり前で過ごしている日々がこれからも続くように、私たちにできることは、戦争で多くの人の命が失われたこと、亡くなった一人一人に名前があり、家族があり、未来があったことを決して忘れないことです。戦争を体験した世代は年々少なくなり、お話を聞く機会はますますなくなっていきます。だからこそ、私達が戦争は人の命を簡単に奪うものであることを深く心に刻み、次の世代へとバトンをつないでいくことで、二度と戦争を起こさないようにしていかなければなりません。そのためにも、辛く悲しい出来事ですが、戦争について正しく知ることから始めましょう。教室に掲示している「沖縄戦」の資料をよく読んでください。そして、お家の人にも今日という日の意味をみなさんが伝えて下さい。そして、今、生きていくことの幸せをかみしめてほしいと思います。

